

競技注意事項（R8 通信陸上）

1 競技規則に関して

本大会は、2026年度公益財団法人日本陸上競技連盟競技規則ならびに、本大会要項及び競技注意事項、申し合わせ事項によって行う。

2 競技場使用について

- (1) ウォーミングアップは、補助競技場を使用する。使用については、別記「練習区分」を参照する。
- (2) 砲丸投の練習は、主競技場砲丸投ピット（当日に競技のある選手のみ）と補助競技場砲丸投ピットのみとする。その他の場所での砲丸を使用しての練習は禁止する。砲丸を投げる際には、必ず指導者がつくようにする。
- (3) 円盤投の練習は、競技2日目9：15～10：15の時間のみ補助競技場円盤投ピットを開放する。その他の時間、場所での投てき物を使用しての練習は禁止する。
- (4) 室内練習場は、原則開放しない。ただし、悪天候時は総務の判断により室内練習場をウォーミングアップ場として開放する。その際は、アナウンスで連絡する。
- (5) 両日7：00～8：30の時間で主競技場を開放する。ただし、当日に競技がある選手のみの使用とする。
- (6) スパイクピンの長さは9mm以内とする。ただし、走高跳は12mm以内とする。

3 選手の招集の方法について

- (1) 招集所は主競技場第1ゲート外側（フィニッシュ側ゲート外側）に設ける。
- (2) 招集開始時刻（点呼を開始する時刻）と招集完了時刻（点呼を終了して招集所から競技場所へ移動を開始する時刻）は、別記競技日程の通りとする。
- (3) 競技者は招集開始時刻までに招集所に集合し、点呼を受ける。その際、競技役員にアスリートビブス、衣類及び競技場内へ持ち込む物品等の確認を受ける。点呼終了後は、競技役員の誘導に従って競技場へ入場する。
 - ※ スマートフォンやスマートウォッチ等の通信機器および音楽再生機器等は、競技場内へは持ち込めない。ただし、スマートウォッチにおいては、電波を発信しない状態（機内モード）に設定していれば、持ち込み・着用を認める。
 - ※ 点呼後は各校の控え場所などには戻れないので、競技に必要なものはすべて準備して来る。
- (4) 招集完了時刻に遅れた競技者及びリレーオーダー用紙提出時刻に遅れたリレーチームは、当該競技種目を棄権したものととして処理する。
- (5) 棒高跳、円盤投の招集については、競技場所（棒高跳・円盤投ピット）において行う。競技者は、各競技の担当審判員の点呼を受ける。
- (6) 招集所には選手以外は入場できない。（いわゆる「付き添い」の禁止）
- (7) 競技への出場を棄権する場合は、競技者の所属する学校・チームの監督が欠場届に必要事項を記入し、当該競技の招集開始時刻までに招集所に提出する。用紙は招集所に用意したものを使用する。
- (8) 多種目同時に出場する競技者は、あらかじめその旨を本人または代理人が招集所に準備されている多種目同時出場届に記入し、最初の種目の招集完了時刻までに招集所に提出する。
- (9) 競技場で着用する衣類やバッグの1品ごとに製造会社のロゴが入っている場合は、その大きさは、面積40cm²・高さ5cm以内とし、それぞれ1か所とする。これを越えるものについては、競技場内には持ち込めない。競技役員に指摘された場合は、その指示に従うこと。特にTシャツやバックにプリントされているロゴなどについては注意すること。詳細は、「競技注意事項」最後のQRコードを読み込み確認すること。

4 アスリートビブスについて

- (1) アスリートビブス（福島陸協）は、胸と背に付けること。ただし、走高跳（四種競技を含む）、棒高跳、走幅跳に出場する選手はどちらか一方でよい。
- (2) 800m、1500mの競技者は、招集所で配付する腰ナンバー（写真判定用）をランニングパンツの右側やや後方につける。3000mの競技者は、招集所で配付する胸ナンバーをランニングシャツの前方に、腰ナンバー（写真判定用）をランニングパンツの右側やや後方につける。

5 競技場への入退場について

- (1) 選手の入退場は、すべて競技役員の誘導による。
- (2) トラック競技の競技者は、ゴール後第1ゲートから退場する。ただし、リレーに出場した選手は、競技終了後、競技役員の指示に従って退場する。
- (3) フィールド競技の競技者は、競技役員の指示に従って退場する。

6 競技運営について

(1) トラック競技について

- ① スタートはイングリッシュ・コマンドにて行う。四種競技を除き、不正スタートをした競技者は1回目で失格とする。四種競技においては、各レースでの不正スタートは1回のみとし、その後に不正スタートをした競技者はすべて失格とする。
- ② 次のラウンドへの進出については、別記競技日程「組一着+人」記載の通りとする。
- ③ 次のラウンドの進出者を決めるときに最後の1枠に同記録者がある場合は、写真判定主任が同記録者の1/1000秒の実時間を判定して進出者を決める。その結果、記録差がなく、空きレーンがある場合は、同記録者が次のラウンドへ進出できるようにする。それが不可能なときは、同記録者本人あるいはその代理人が抽選を行って進出者を決める。
- ④ 100m～400m、ハードルおよびリレーでは、競技者の事故防止のため、フィニッシュライン到着後も自分に割り当てられたレーン（曲走路）を走る。
- ⑤ 800mは、スタートから第2コーナーの出口までをセパレートで行い、出口を通過した地点（トラックに設置したマーク）からオープンとする。
- ⑥ リレーのオーダー用紙は、招集完了時刻1時間前までに招集所に1部提出する。用紙は招集所に用意したものを使用する。
- ⑦ リレーにおいては、競技者全員が同一系のユニフォーム（シャツ、パンツ）を着用する。
- ⑧ リレーの第2・3・4走者が使用するマークは各学校・チームで準備し、競技終了後は責任をもって撤収する。なお、マークは各走者とも1箇所のみとする。

(2) フィールド競技について

- ① 競技前の主競技場での跳躍・投てき練習は、競技役員の指示によって行う。
- ② 審判員のコール後1分以内に競技を開始する。
- ③ 跳躍種目の競技者は、主催者が準備したマーカーを2カ所まで置くことができる。
- ④ 他種目に同時に出場する競技者は、当該競技審判主任の判断により、フィールド競技について試技順を変更することができる。試技順を変更しても試技時間に間に合わなかった場合は、無効試技とみなす。

- (3) 四種競技の最終種目（男子400m、女子200m）は、3種目終了時点の合計得点により番組編成を行う。
- (4) 結果発表はアナウンス及び大型映像装置で行うとともに、速報サイトに掲載する。なお、アナウンスでの結果発表終了時刻を正式発表の時刻とする。
- (5) 本会場では、構造上、危険を伴うため、どのような方法であっても録画されたものを確認するための機器の受け渡しをすることはできない（コーチングエリアも含む）。また、受け渡しをしない場合でも、自撮り棒などを使用した録画媒体の確認も危険を伴うので行わない。

7 走高跳・棒高跳におけるバーの上げ方について

種目	練習	バーの上げ方
男子 走高跳	1m40 1m60	1m45-1m50-1m55-1m60-1m65-1m70-1m75-1m80-1m83-1m86（以降3cmずつ上げる）
女子 走高跳	1m20 1m45	1m25-1m30-1m35-1m40-1m45-1m48-1m51-1m54-1m57-1m60（以降3cmずつ上げる）
男子 棒高跳	1m90 2m50	2m00-2m10-2m20-2m30-2m40（4mまで10cmずつ、4m以降5cmずつ上げる）
女子 棒高跳	※女子については、参加選手の実態に応じて、競技役員で協議の上、高さを設定する。	
男子四種 走高跳	1m30 1m51	1m35-1m40-1m45-1m48-1m51-1m54（以降3cmずつ上げる）
女子四種 走高跳	1m10 1m31	1m15-1m20-1m25-1m28-1m31-1m34（以降3cmずつ上げる）

8 競技用具について

競技に使用する用器具は、主催者が用意したものを使用する。また、競技場内に個人の競技用具を持ち込むことを禁止する。ただし、棒高跳用ポールに限り個人所有のものを使用する。

9 表彰について

- (1) 表彰式は行わない。
- (2) 各種目8位まで賞状を授与する。
- (3) 結果発表30分経過後に、室内走路に準備する。入賞者（チーム）は室内走路で賞状を受け取る。

10 競技用シューズの規定について

競技用靴については、競技規則TR5.2及び(国内)競技用靴に関する主要規則を適用し、規定外シューズ使用者の扱いについては「失格扱い」とする。ただし、サークル競技(砲丸投、円盤投)のシューズについては、この競技規則を適用しない。(2026年4月にルール改訂)

トラック競技もフィールド競技(サークル投てき競技を除く)もすべて、靴底の厚さは20mm以内

※ WA承認リストにあるシューズを使用していることを前提に招集所にてチェックは不要となる。ただし、審判員や審判長の権限により求められた場合はチェックする。

11 個人情報の取扱い及び盗撮防止について

- (1) 個人情報の保護に関する法律及び関連法令を遵守し個人情報を取り扱う。なお、取得した個人情報は、大会の資格審査、プログラム編成及び作成、記録発表、公式ホームページ、その他競技運営及び陸上競技に必要な連絡等に利用する。
- (2) 大会の映像・写真・記事・個人記録等は、主催者及び主催者が承認した第三者が、会運営及び宣伝等の目的で、大会プログラム・ポスター等の宣伝材料、テレビ、ラジオ・インターネット等の媒体に掲載することがある。
- (3) 大会時の写真・動画については、ソーシャルメディア（SNS、電子掲示板、ブログ、投稿サイト、情報共有サイト等）で掲載及び配信をしないこと。ただし、団体及び個人が、事前に許可を得ている場合はこの限りではない。
- (4) 写真・動画等の撮影については以下の事項を禁止とする。
 - ① 競技者の保護者及び本人の同意のない撮影。
 - ② 撮影を禁止された区域での撮影。（プログラム撮影禁止エリア参照）
 - ③ 競技者がスターティングブロックの足合わせをしているときの撮影。
 - ④ 試技を待っている間や、身体を動かしているときの撮影。
 - ⑤ その他、主催者から禁止の指示があった撮影。

12 その他

- (1) 救護室は主競技場内1階に設置する。応急処置は行うが、以後の責任は負わない。
- (2) 選手、競技役員、指定の帽子をかぶった補助員、本部の許可を得て特定のビブスを着用した報道関係者以外は、競技場内への立ち入りを禁止する。
- (3) メインスタンドでの集団応援や、競技の妨げになる応援は禁止する。特に、フィールド競技進行中のトラック競技に対する応援は、競技進行の妨げになることのないように注意する。
- (4) アクセサリー類（指輪、ネックレス、サングラス等）の着用については禁止する。医療目的の物については、原則テーピング類のみとする。
- (5) 本大会の男女円盤投と女子棒高跳の記録上位2名には、第47回東北中学陸上競技大会への出場権を与える。公式記録発表後、該当選手には、関係文書を配付する。

なお、県中体連陸上大会終了後に参加の意思を確認する。参加辞退が出た場合は、本大会の記録上位者から繰り上げて参加者を決定する。



競技会における広告および 展示物に関する規程